



大基委大評第 149 号
平成 26 年 3 月 17 日

北里大学
学長 岡安 勲 殿

公益財団法人 大学基準協会
会長 納 谷 廣 美



貴大学の「改善報告書」の検討結果について（通知）

標記に関し、本年度、貴大学よりご提出頂きました「改善報告書」につきましては、大学評価委員会において慎重な審議を行い、別紙の通り検討結果をとりまとめましたので、ここにご通知申し上げます。

なお、検討結果に付されている「再度報告を求める事項」につきましては、次回大学評価申請時に点検・評価報告書の中で、その改善状況をご報告くださいますようお願い申し上げます。

添付資料 「改善報告書検討結果（北里大学）」

以上



〈 改善報告書検討結果（北里大学） 〉

[1] 概評

2009（平成 21）年度の本協会による大学評価に際し、問題点の指摘に関する助言として 17 点、勧告として 1 点の改善報告を求めた。今回提出された改善報告書からは、これらの助言・勧告を真摯に受け止め、意欲的に改善に取り組んでいることが確認できる。

ただし、次に述べる取り組みの成果が十分に表れていない事項については、引き続き一層の努力が望まれる。

教育課程等については、薬学部、獣医学部、海洋生命科学部の 2 年次以降はそれぞれ別キャンパスで学修するにもかかわらず、1 年次に学生生活を送る相模原キャンパスで 1 群科目の一部を単位未修得・未履修のまま進級した際、当該科目の再履修・再試験に関する学生への対応が不十分であった点に関し、一部改善がみられた。しかし、1 年次に単位未修得・未履修となった 1 群科目の一部を、授業回数の少ない短期集中講義、「DVD 講義」、レポートによる代替等の方法で学生に履修させていることは、実質的な再履修が行われているとはいえないため、引き続き改善に向けての努力が必要である。

教育方法等については、海洋生命科学部の 1 年間に履修登録できる単位数の上限が 50 単位と設定されたものの、単位制度の趣旨に照らして十分な改善とはいえないので、一層の努力が望まれる。また、獣医学部、医学部、海洋生命科学部、看護学部、理学部、医療衛生学部、薬学研究科、獣医畜産学研究科および医療系研究科のシラバスの記述内容に精粗があり、一部においては成績評価基準が明示されていなかった点に関し、一定の改善はみられたものの、いまだ成績評価基準が具体的でないものが散見される。また、記載内容に精粗がみられるので、大学全体で統一を図り組織的に改善することが求められる。学生による授業評価アンケートの実施やその公表については、一定の改善がみられる。しかし、アンケートの実施は必修科目等のみであることに加えて、アンケート結果を学生に対して公表してはいるものの、それらの結果を授業改善に向けて活用するなどの組織的な取り組みは行われていない。今後は、すべての科目に対するアンケートを行い、それらの結果を分析して積極的なファカルティ・ディベロップメント（FD）活動の実施のもとに授業改善を行えるよう、大学全体で組織的に取り組むことが求められる。

学位授与・課程修了の認定については、全研究科・学府の学位授与方針と学位論文審査基準が学生に明示されていなかった点に関し、薬学研究科、獣医学系研究科、海洋生命科学研究科および医療系研究科では、学位論文審査基準がいまだ策定されておらず、感染制御科学府では、策定されているもののあらかじめ学生に明示されていない。未策定の研究科については早急に策定のうえ、『大学院履修要項』等であらかじめ学生に明示するよう、改善が望まれる。

学生の受け入れについては、医療衛生学部の編入学定員に対する編入学生数比率が 0.47

となっている。その他、一部の学部で評価当時よりも数値が悪化しているので、引き続き大学全体として定員管理に努めることが求められる。

教員組織については、薬学部で31～40歳が39.4%、獣医学部で51～60歳が33.0%、海洋生命科学部で31～40歳が32.1%、41～50歳が32.1%、看護学部で41～50歳が42.5%、理学部で41～50歳が31.9%、51～60歳が36.2%と、それぞれ高くなっているため、年齢構成のバランスにおいて改善に向けた一層の努力が望まれる。

[2] 今後の改善経過について再度報告を求める事項

- 1 学生の受け入れについて、次回大学評価申請時に改善状況について再度報告されたい。

以 上